

「目的のある愛はみな本当の愛ではない」（「同級生」）

没後三十年、なおも読者を揺さぶり続けている作家、張愛玲（1920-95）。そのテキストの魅力について語り合うイベントを企画しました。二十世紀の華語圏を代表する稀有な作家の読み手／訳し手／調べ手にお集まりいただいています。ぜひお好きな形式でご参加ください。

プログラム（神戸大学文学部 B132）

10:30	開会挨拶
10:45～11:15	講演Ⅰ
桜庭一樹	サディズムがなくロジックがある？ 中国恋愛小説における男性像の驚きと魅力
11:15～11:45	講演Ⅱ
茅野裕城子	北京で、上海で、東京で、張愛玲という人生について、調べていくうち、いつの間にか張愛玲迷に
11:45～12:00	質疑応答（15分）
12:00～13:00	昼食
13:00～14:00	セッションⅠ 読んで、訳して、考える（一人20分）
池上貞子	張愛玲の沈黙——拙訳書刊行こぼれ話
小川主税	高處不勝寒——張愛玲から梁京へ
藤井省三	恋愛小説と日中戦争——張愛玲「封鎖」におけるモーパッサン「脂肪の塊」の反転
14:00～14:10	休憩
14:10～15:10	セッションⅡ さまざまな登場人物
林麗婷	越境する身体と挫折する恋——張愛玲が描く留学生
鄭洲	想像と体験のはざままで——妾から張愛玲文学を読む試み
濱田麻矢	抜けない棘：編み物の下手な女の子
15:10～15:30	休憩
15:30～16:50	セッションⅢ 銀幕と舞台から
邵迎建	『舞女涙』と『十八春』
垂水千恵	張愛玲から／への距離：許鞍華・李安・關錦鵬そして翻訳
河本美紀	張愛玲のデュアリティ——「カワイイ」横顔
三須祐介	京劇「金鎖記」と魏海敏
16:50～17:00	休憩
17:00～17:30	ラウンドテーブル
17:30	閉会のあいさつ

懇親会は三宮近辺で 18:30 ごろ開始予定。問い合わせ：hamadama@gmail.com 濱田